



神の力

シリーズ・パウロ
第31回



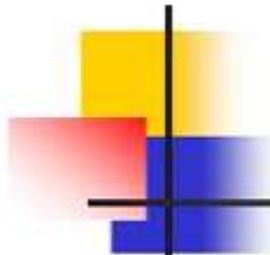
ローマの信徒への手紙

- ローマ教会はパウロが直接宣教して生まれた教会ではなかった
 - しかしパウロの弟子や知人が大勢いたものと思われる(16章のあいさつ文から)
- 未だ見ぬ信徒たちへ福音の本質を余すところ無く語った, パウロ神学の集大成
 - イエス・キリスト(死と復活の意味)・罪・義・信仰・恵み・贖い・ユダヤ人と異邦人……



人類の罪

- すべての人間は正しく生きていない
 - 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」(3:23)
- ユダヤ人も異邦人も同じように罪深い
 - 「律法を知らないで罪を犯した者は皆、この律法と関係なく滅び、また、律法の下にあって罪を犯した者は皆、律法によって裁かれます。」
(2:12)



行いによる救いの限界

- ユダヤ人に与えられた「律法」を守ること
罪から脱出することを目指したパウロ
 - ファリサイ派に属し、ガマリエル門下で学んだ
 - クリスチャンを迫害するほど熱心であった
- しかし「律法」は罪の意識を増やすだけで、
解放へは導かなかった
 - 「命をもたらすはずの掟が、死に導くものであることが分かりました。」(7:10)



完璧な救い(キリストの贖罪)

- 神の御子キリスト・イエスが全人類の罪の身代わりとして死なれた
 - 「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。」(3:25)
- 御子の死によって示された神の愛！
 - 「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」(5:8)



信仰による義（罪からの救い）

- 行いではなく信仰によって義と認められる
 - 「不信心な者を義とされる方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。」
(4:5)
- すべての人間が等しく義と認められる
 - 「イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。」(3:22)



恵みとして

- 信仰による義は神からの「恵み」(プレゼント)として無償で与えられる
 - 「ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」
- 「恵み」は与え続けられる
 - 「こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。」(5:21)



ただ義とされるだけではなく

- キリストと共に生きる
 - 「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。」(6:8)
- 神の霊が私たちを新たな命で生かす
 - 「もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。」(8:11)



神の力

- 福音はすべての人を等しく罪から救い、キリスト共に永遠の命を生かす神の力である
 - 「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。」(1:16)
- これはパウロ自身と、パウロが福音を伝えて救われた多くの人たちによって与えられた確信であった！